

青少年相談員だより



“令和元年度 那珂市青少年相談員連絡協議会 移動研修会” 赤城神社にて

(R1.11.7撮影)

「素敵な大人になってもらうために」

那珂市青少年相談員連絡協議会

会長 関 守

先日、家庭教育学級の合同研修会に参加して来ました。講師は保護司の柴原政好先生。演題は「こどもたちが自分の未来を切り拓くために」でした。

先生は、夢の実現に向かって、そして素敵な大人になってもらうために、中学生の今、身に付けてほしい次の点を挙げていました。

- 一、朝、一日のはじめに、「おはようございます」と声を掛け合いましょう。
- 一、時間が守れる人になりましょう。
- 一、忍耐力を養う。
- 一、親を思う心を大切にす。
- 一、ボランティアや自然体験を数多く経験して、今からの生活に必要な知恵を身につけましょう。

大人になりたくないと考えていても、人は年齢を重ねていきます。時間の流れを止めることはできないのです。若い時から夢を語り、その準備をした方が賢明ですと熱く語っていました。

新しい令和の時代となり、次の時代を担う若者の皆さんに遺産を残す役目は、大人にあることは勿論ですが、「どんな時代にしたいか」を準備、実践する大切な役割を担っているのも、今を生きる我々大人の行動にかかっていると思います。

中高生と語る会

毎年、夏休み期間を利用して開催しているこの会は、中学校区ごとに中・高校生と大人（教師や保護者・地域住民等）が一堂に会し、学校生活や家庭生活・大人社会等について熱い思いを交わす場となっています。

今号では、その中から、3つの中学校区の様子をお知らせします。

青遙学園 第二中学校

目的

「なぜ、今読書が必要なのか」をテーマに、中学生・高校生・大人（教師・青少年相談員）が一堂に会し、学校生活や家庭生活、社会等について意見を交わすことよって、青少年に対する相互の理解を深めるとともに、青少年の健全な育成に努める。

場所

那珂市立第二中学校 パソコン室・教室

日時

令和元年7月20日 午前9時より

参加者

中学生12名、高校生3名、第二中学校長、同校職員4名、まちづくり委員長2名、青少年相談員8名

内容

中学生が「すすめたいとおきの一冊」を紹介。推薦した理由が読書が必要か否かを発表する。3班編成で高校生が進行役という形で実施しました。

①講話

加藤教諭（那珂第二中学校）
「今読んで欲しい12冊」を紹介。

②討論内容

●読書が必要という肯定的意見

○生き方を考えられる。

○本はやすらぎをくれる。

○自分の考えを広げてくれる。

○「経営者になり、社会バランスを考えた上で活躍したい」が必要。

- 読書に対する否定的意見
- 読書に割く時間がない。
- 読んでも頭に入らない。
- その他
- 読書が必要なのは潜在意識としては持っている。
- 「受験」を見据えて読解トレーニングとして、読書をしたいたの考えを持っていました。



緑桜学園 第二中学校区

令和元年7月25日、ふれあいセンターよしのに於いて、中学生15名、高校生4名、保護者7名、三中の先生5名、芳野・木崎地区まちづくり委員長及び事務局長4名、青少年相談員10名の参加で、「ビブリオバトル」が行われました。

ビブリオバトルは、誰でも（小学生から大人まで）参加できる本の紹介コミュニケーションゲームです。

「人を通して本を知る・本を通して人を知る」をキャッチコピーに日本全国に広がっているものです。

中・高校生と他の参加者が5班に分かれ、中・高校生が①②③の手順で発表しました。

①順番に一人5分間で、面白いと思った本の内容や感じたことを発表しました。

②それぞれの発表の後に、参加者全員でその発表に関するディスカッションを2〜3分行いました。

③全ての発表が終了した後に「どの本が一番読みたくなかったか？」を基準とした投票を班毎に全員で行い、最多票を集めたものを「チャンプ本」としました。

●各班で紹介された本を紹介します。なお、太文字はチャンプ本です。

A班 『窓ぎわのトットちゃん』『大延長』『ラスト サバイバル』『君は月夜に光り輝く』『いつか眠りにつく日』

- B班 『心に太陽を持って』『のび太』という生き方』『奇譚（きたん）』『ルーム』『働くことの喜びはみんなアイズニーストアで教わった』
- C班 『大延長』『名のないシシヤ』『夏は終わらない』
- D班 『聲（こゑ）の形』『ジャングルブック』『ほくたちのリアル』『ほくのつくった魔法のくすり』
- E班 『温室アイズ』『サティナーイン・クルーズ』『五分後に意外な結末』『この川のむこうに君がいる』



ここで、那珂三中の校長先生の講評の一部を紹介いたします。

○読書離れが進む中で、本を手にとって紹介している姿に感心した。

○読書の良さは、登場人物の子や場面の色等を、自分で想像できることである。

●最後に参加者からの感想（アンケート）の一部を紹介いたします。

〈7年生〉
改めて本の大切さを知り、読書への気持ちが変わった。紹介された本が理解でき、読んでみたいと思った。これからは色々な本を読んでみたい。
〈8年生〉
人に問いかけるようにスピーチすると、聞いている人も考えながら聞くことができるのだなとわかり、とても参考になった。

〈高校一年生〉
中学生や大人の人たちと話してみても、様々な本に出会うことができた。みんな難しいそうなの本を読んでいるが、とても上手に説明していて感心した。

白鳥学園 瓜連中学校区

令和元年7月30日、らぽーるにて、まちづくり委員会 増淵委員長、古目谷副委員長、萩野谷事務局長、瓜中 白井校長、生徒指導 藤田先生、協議会の関会長にご臨席をいただき、中学生15名、高校生5名、青少年相談員7名総勢33名で開催されました。

私たちは、最近起きている様々な事柄の大きな要因の一つは、青少年、特に中高生自身が、自分のことを知らない、自信をもっていないことだと考えました。そこで、今回のテーマは、『自分のプラス面を見つけよう』とし、自分自身の長所を見つめる、他の人を理解する、対人関係能力の向上を図ることを目的として実施しました。その結果、主な感想は、次の通りでした。

○とてもリラックスでき、素直に飾らず意見を言えた。
○とても楽しく、それぞれの長所を見つけることができた。



- 自分に自信をもつことの大切さに気づいた。
- 他人の良さを見つけ、感じる大切さがよくわかった。
- 自分の長所を生かして、他の人の長所も気づけるようにしたい。

- 友だちの長所をたくさん知ることができた。
- めっちゃ楽しかったので、次回も参加したい。
- 自分の将来に、今回の体験を生かしたい。
- 他人の良いところを見つけて、素直にほめてあげたい。
- 参加人数を増やして、沢山の人が参加できるようにしてほしい。

青少年相談員研修会

わかすぎ学園 第四中学校区 青少年相談員 6月25日、「ふれあいセンター」に於いて、市教育委員会 中庭一俊先生を講師に迎え、「那珂市の児童生徒の課題と対策について」というテーマのもと研修会が開催されました。初めに中庭先生より講話を頂き、その後は分散



- 講話内容
- 不登校児童生徒の現況は、全国的に増加傾向にあり、小学生より中学生に多く見られる。その背景には友人・家庭環境が関係している。

- いじめの現況にあつては、各小中学校のアンケート調査による認知数は365件と多く、その様子は悪口や冷やかしによるものが半数を占めている。
- 課題と対策として、各小中学校は、いじめの未然防止や早期発見に努めている。学校・家庭・地域が連携し、いじめが起きにくい環境づくりや子ども育成に協力する体制づくりが必要である。



会を設け話し合いました。



○いじめの認知には格差が見られるが、各学校には継続して要因や背景を正しく把握し慎重に指導していただきたい。また、青少年相談員としては、声かけ・あいさつを通して、これからも子ども達を支援していきたい等の意見が出ました。年に一度の研修ですが、専門講師からの講話は、私たちの活動に大きなプラスとなり、今回も有意義な会となりました。

移動研修会

ばら野学園 第一中学校区 青少年相談員

11月7日、移動研修会として、児童自立支援施設である群馬県立ぐんま学園へ行ってきました。

先ず、子どもの権利条約4つの柱「生きる権利」「育つ権利」「守られる権利」「参加する権利」を運営指針としていること、ぐんま学園の沿革や組織、入所状況、児童の生活状況などをリーフレットに沿って説明を受けました。

次に、レジメに沿って、昭和24年以降における刑法犯少年の検挙人員、及び人口比の推移や複雑な家庭環境の影響として

- 生活の不安定さ↓安心感・安全感の欠如
- 基本的な生活環境が身につけていない
- 常識的な考え方・知識が身につけていない
- たくさんの誤学習

最後に『学校コワイ』（ぶん／よつば もこ）という絵本の紹介があり、ある種の発達障害の子の一番の悩みは、相手の言っていることが「わからない」ことであり、それはまっさらでわからないというより、見方、考え方が異なるので理解できない「何を言っているの?」「何のこと?」とのことでした。

この辺のことは、ここでの説明だけでは理解が難しくだったので、絵本をじっくり読んで考えようと、



絵本を注文することにしました。

移動研修会を終えて、児童・生徒などの青少年の問題は、「戦後の混乱期」「高度経済成長による格差の増大」「石油ショック」など、大きな社会の変動により生じてくること、また、一人一人の家庭環境や個性などを理解した上で、取り組んでいくことの重要性を再認識しました。

第3ブロック研修会

ばら野学園第一中学校区 青少年相談員



小美玉市四季文化館みのくれ森のホールにて、2月8日(土)に「茨城県青少年相談員連絡協議会第3ブロック研修会」が実施されました。

冒頭の県協議会 山口恒己会長あいさつで、広域化する青少年問題の解決にあたり二つの提案がされました。一つは、子どもたちの居場所をと考

える子ども食堂等の推進、もう一つは、健全育成を考へての里親制度の導入と推進です。これらの提案事項については、内容をよく理解し推進したいと思えます。

筆跡診断士 小山田香代氏の講演会では、普段何気なく書いている文字には、その人の性格・行動・考え方が表れるということが話されました。文字を書く事によって脳が活性化される、集中力が高まる、気持ち安定しメンタルアップにつながるなど良い面がたくさんあるそうです。ただし、改善する意識を持って文字を書くことが重要です。改善するポイントとして「とめ・はね・はらい・間隔」があるなど、文字の例を挙げての講義でした。文字を書く事が少なくなつた昨今ですが、文字は嘘をつかないし、本音を語ってい

るので、一日5分〜10分の改善意識を持って文字を書く習慣を作ることにより、心の軌道修正ができ、なりたい自分になれる力を持っているとの内容でした。大変参考になり、相談員皆様で受講できれば良いと思いました。

小美玉市をはじめ、ひたちなか市、城里町の代表相談員による事例発表は、景色は変われど、活動内容、課題等については我々と同じように思います。

連絡協議会も発足以来50年を迎えること聞き及びます。また、社会環境が著しく変化するなか、山口会長の提案に議論を重ね、熟知し、現代に合う青少年のあるべき姿を検討し、地域に信頼される相談員活動を展開していきたいです。

令和元年度 事業報告	
通年	担当地区定期巡回(夜間含め、年15回程度) 児童生徒へのあいさつ声かけ 那珂市民会議等の事業への協力
4月	年度初めの学校へのあいさつ
5月	ステーションパトロール
6月	研修会
7月	「青少年の健全育成に協力する店」の登録推進活動 中高生と語る会
8月	夏休み繁華街パトロール 青少年健全育成のための懇談会 ひまわりフェスティバルパトロール
10月	移動研修会 第49回茨城県青少年相談員研修大会への参加
11月	ステーションパトロール
12月	冬休み繁華街パトロール
1月	「青少年の健全育成に協力する店」への新年あいさつ
2月	茨城県青少年相談員連絡協議会第3ブロック研修会
3月	中学校卒業式パトロール

【発行人】
那珂市青少年相談員連絡協議会
会長 関守